

# 校長会報

令和2年度 第3号  
発行所  
鳥根県小学校長会  
事務局  
松江市母衣町 55  
県教育会館内  
TEL (0852)27-8530  
FAX (0852)67-3360

## 幸せのものさしを増やす



一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー  
代表理事  
檜垣賢一

檜垣賢一

今の子どもたちが将来どんな環境に置かれようと、幸せな暮らしを営んで欲しい。そのために、今の大人が出来ることはなんだろうか。私は多様な幸せ感を持った大人と出会わせて、「幸せのものさし」を増やしてあげることだと考えています。

私は山口県の田舎町の新興住宅地で生まれ育ちました。当時の私の「幸せのものさし」は、たった一つです。それは、娯楽施設の数の多さ、つまり物質的な豊かさでした。ですので、都会に比べて娯楽施設の数が少ない山口で暮らしを卑下するようになってしまいました。進路は必然と都会志向へ。大

学進学とともに東京へ上京しました。

都会での暮らし、地元にはない娯楽施設が溢れており、飽きることがありませんでした。ところが、都会暮らしが始まり数ヶ月、あることに気がつきます。それは、遊ぶにも、日常生活を営むにも、田舎に比べてお金がかかること。毎月の家賃の支払いのことなど、日々の生活の中で、お金のことで悩むことが増えてきました。幸せのものさしが物質的な豊かさだった私は、それでも都会の暮らしを離れる選択肢はなく、そのまま東京で就職することになりました。何となく豊かさとは何だろうかと考え始めた矢先に、ある転

機を迎えます。それは就職先の最初の赴任地が、なんと鳥根県益田市だったのです。

この益田市との出会いが、私の価値観を変えます。まず、驚いたこと。それは、人口四百五十人の集落で空き家を借りて住むことになったのですが、移住してまもなく、地域の子どもからシニアの方まで、三十人近くのみなさんが歓迎のBBQ会を催してくださいだったので。過疎地にも関わらず、こんなにも人との出会いがあり、こんなに温かく受け入れてもらえることに幸せな気持ちでいっぱいとなりました。

そこから始まった田舎暮らし。毎日が驚きに満ち溢れていました。毎朝隣家の八十代のおばあちゃんがいつてらっしゃいの挨拶をしてくださり、お裾分けの文化があり、近所の子どもたちとも仲良くなり、年に二回は早朝から草刈りでその後お昼からビールを飲みながらの懇親会があり、人との関わりが濃厚な日々を過ごします。山口の新興住宅地で生まれ育ち、上京してからも近所付き合いのない暮らしだった私にとっては、すべてが新鮮でした。初めて「人との繋がりの中で生きていく幸せ」を実感することができ、私にとって幸せのものさしが増えました。それだけではありません。娯楽施設は都会に比べて少ないのですが、土日

に暇をすることがありません。それは、地域の運動会、文化祭、マルシェなど、手作りによる娯楽がたくさんあるからです。ここでの暮らしを通して、「ないなら、つくる」という、娯楽を与えられるだけではなく、自ら創造すればいいと考えられるようになりました。ないものを、みんなで作くりあげていく喜び、ここでも幸せのものさしが増えました。

さて、話が随分と長くなってしまいました。ですが、要は人との出会いを通して、私は幸せのものさしを増やしていきました。益田と出会うまでの幸せのものさしは、お金で買える幸せ感でした。ですが、益田での暮らしを通して、私が出たものさしは、お金では買えない幸せ感です。この世の中には、お金では買えない幸せが満ち溢れているのです。だからこそ、今の鳥根の子どもたちに伝えたいことは、都会の暮らしと比較する中で、安直に自分の暮らしを卑下するのではなく、多様な幸せのものさしがあって、決して比較されるものではないということを知って欲しいと思います。そして、そのものさしが多ければ多いほど、人生は豊かになっていく。そのために、多様な幸せ感を持ち合わせた大人との出会いが大切だと考えております。



朝礼講話 \* \*

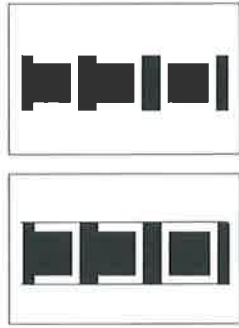
みんながつてみんないい  
一人一人にあった学び方を

高橋 和弘

(松江市立大野小学校)



おはようございます。今日はみなさんに「みんながつてみんないい」というお話をしたいと思います。問題は出しますので分かった人は、黙って手をあげてください。(上の図)これは、なんででしょう？



すぐに分かった人、なかなか分からない人がいると思います。(数人がわかりました。)では、これだとうですか？(下の図)全員手があがりましただね。では、(下段の図)★の1行は、どちらが読みやすいですか？(右の方に多く手があがりましただね。私は、読める読めないよりもどうしたら読みやすいかが大事だと思います。

みんなには、得意なことがありますか？(例を挙げて聞いてみるとたくさん手があがりました。)では、苦手なことありますか？(これにもほとんどの人が手があがりました。)

そうですね。得意なことでも苦手なことでも誰にでもあります。それが当たり前です。得意なこと、苦手なことのがらばり方は、ひとりひとり違います。自分にあつた学び方もひとりひとり違います。自分にあつた友だちとの関わり方もひとりひとり違います。

大事なことは、違う学び方、関わり方を認め合うことだと思います。

たとえば、①逆上がり補助器を使って逆上がりを練習する。②スリットを使って教科書を読む。③時間割や予定表を見て見通しをもつ。④タイマーを使って時間を区切って勉強する。⑤通級指導教室の先生と学習する。⑥たんぼほ学級で学ぶ。(特別支援学級)などです。どれも、自分に合っていれば使ったり、取り組んだりしてほしいです。

校長先生が願うことは、「一人一人にあつた学び方や生き方を見つけしてほしい。そして、それを認め合つてほしい。」ということだと思います。これでお話を終わります。



考えよう 伝えよう

藤原 稔

(奥出雲町立三沢小学校)



こんな話を聞きました。ある人が街を歩いていると、小さな男の子とお母さんが歩いているのに出会いました。ちょうどすれ違う時に男の子が転んでしまったそうです。その人はびっくりして、すぐに男の子を助け起こそうとしました。ところが、お母さんが「すみません、手を出さないでください。」と言ったそうです。

どうしてだと思いませんか。(子どもたち)「けがをしていなかったから。」「自分で起きられるから。」「甘やかせてはいけないから。」男の子が自分で立ち上がったから、お母さんは「親切にありがとうございませす。自分で起き上がらせたいのです。」と言われたそうです。

私にも同じような経験があります。目の不自由な方がコンサートを聴きに行くお手伝いをしたことがありました。コンサート会場の前で待っている白い杖をついた男の人がバスから降りてきました。挨拶のあと、コンサートまで少し時間があつたので、近くの喫茶店に入るようになりました。注文したコーヒーが来たので、その人に砂糖を入れてあげようとしたら、「自分でできることまでしてしまふのは親切とは言わないよ。時計の何時の方向に砂糖があるか言ってもらえれば分かるよ。」と言われました。私は、言われて初めて相手のことを考えていなかったことに気が付きました。

みなさんはいつものどんなことを考えて人と接していますか？相手のことを全て分かることは難しいと思います。が、少しでも分かるうとしていたり、相手が何を思ったり感じたりしているか考えてみることは大事なことだと思います。また、はじめの話のお母さんや私が出会った男の人のように、自分の考えや思いをしっかりと相手に伝えることも大切なことですね。

この前、一日入学がありました。四月からは新しい四人の一年生が入ってきます。一年生のみんなは同じ教室で一緒に勉強しますね。(本校は完全複式の学校です)新しい一年生にどんなふうに声をかけようかな。ほかの学年の人も今年とは違うメンバーになりますね。相手のことを考えたり自分の考えが伝えられたりするといいいですね。

理事会部会報告

総務部

総務部では鳥根県教育委員会との意見交換会や事業計画並びに予算案についての検討、会務や予算の執行について協議を行いました。

○県教委との意見交換会について

各市郡理事へのアンケート調査結果をもとに、「新型コロナウイルス感染予防対策の対応について」と「教職員を取り巻く現状について（長時間勤務・メンタルヘルス・働き方改革等）」の二つの話題について意見交換を行いました。客野智常任理事（安来・赤江小）と坂田英則常任理事（雲南・加茂小）のお二人には、貴重な情報提供をしていただきました。

○事業並びに予算について

新型コロナウイルス感染予防のための会合の減少による旅費の減額や、会議の広い部屋の使用による会場費の増額など、予算執行に係る変更について話し合いました。また、リモート会議に対応した備品整備を進めるために、リモート会議用パソコンを今年度予算で購入することの了承をいただきました。学校数の減少が今後進むことを見越した予算編成を今後も考えていきたいと思えます。

（仙田浩志）

対策部

対策部では、今年度、主として以下の対策活動を行いました。

○「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」と呼称した取組

○「全連小対策連絡協議会」「中国地区連絡協議会（中国地区小学校長会理事会）」への参加

○全小連によるアンケート調査への回答

コロナ禍に見舞われましたが、学校に真に必要な教育条件を考える一年ともなりました。協議の機会も限られましたが、各市郡の理事の皆様のご協力を得て、意見を集約させていただきました。予定された要望活動を行うことができました。

今年度も、「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」は、子どもたちの教育環境、条件をより良いものとするために、また、子どもたちの教育を支える教職員の勤務条件等の改善を図っていくために、県教育委員会や県人事委員会等に要望活動を行いました。対策部では、全国小学校長会や市町村校長会との連動性及び、国や県の動向を踏まえながら、今後も鳥根の教育の一層の充実を図る要望活動が進められるよう「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」の方向性等について検討を重ねていきたいと考えています。

（対策部委員長 佐々木朗）

調査研究部

調査研究部では今年度は、主に次の内容についての活動を行いました。

○調査活動について

全連小の調査について、七月二十一日の第一回の部会で調査内容や作業予定等を協議しました。例年に比べて短い取組期間になりました。七月下旬に各校長先生方に調査依頼をし、九月初旬には集約して全連小に回答しました。お忙しい中をご協力いただいた校長先生方に感謝いたします。

○研究大会について

今年度は、鳥根県（安来大会）・中国地区（山口大会）・全連小（京都大会）の研究大会の開催予定がありました。が、いずれも誌上開催となりました。安来市校長会では開催に向けて用意周到に計画や準備を重ねてこられたことをお聞きし、残念な思いがしました。

今後の各研究大会の開催場所や発表の予定についての確認をしました。県大会の在り方については、運営面での簡略化を図り、研究により力を入れることとしました。開催のローテーションは令和八年度以降については、今後検討を要することを確認しました。今年度の活動のふり返りをもとに、より充実した調査研究活動になるように検討していきたいと思えます。

（調査研究部委員長 桑本浩泰）

広報部

今年度は、主として次のような広報活動を行いました。

○「校長会報」

編集方針を立て、会員の声を生かしながら、年三回発行しました。編集に際しては、本会の活動の状況や支部活動についての報告等を掲載し、資料性・記録性を大切にしました。

また、全連小の動きや県教育委員会教育長の言葉、「ミドルリーダー育成」をテーマにしたシリーズ特集、新校長の紹介や学校紹介等の欄を設け、会員の研修、会員相互の連携や学校運営に資することをめざしました。

○「校長樹林」

今年度は、出雲支部に編集の担当をお願いし、二月発刊となりました。

六月に編集方針が示され、それに基づいて原稿依頼や複数回の校正作業が行われました。十二月には臨時広報部会を開催し校正作業を行い、会員の皆さんのお手元に届けるに至りました。

○諸活動（全連小関係を含む）

「小学校時報」等の原稿依頼に対して、会員の方々には快く応じていただき、鳥根の教育の一端を発表することができました。

この一年、ご協力いただいた多くの方々に、心より感謝いたします。

（広報部委員長 松本真理）

# 事務局だより

事務局長 仙田浩志

(松江市立持田小学校)

## 一 第六十二回 鳥根県小学校長会

### 教育研究大会安来大会

今年度は誌上開催となり、大会要項が安来市小学校長会によって作成されました。「自ら未来を拓き」とともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」未来に夢と希望をもち、自立・共生して、たくましく生きる子どもを育成する学校経営の推進の大会主題のもと、講演資料、分科会発表資料を中心にまとめられました。講師の安来市加納美術館名誉館長 加納佳世子様より『次世代に託す平和への思いー画家 加納莞菴』と題して、加納莞菴氏の平和への想いと努力を詳細に記した資料を寄稿していただきました。分科会発表資料として、第一分科会では、松江市立古志原小学校の米田靖幸校長先生に「地域との連携で生命を守る防災教育と安全・安心な学校づくりの推進」原

子力防災における防災教育と安全管理を通して」をテーマに、第二分科会では、海士町立福井小学校の濱板健一

校長先生に「地域の特性を生かし、運動や体育づくりに進んで取り組む隠岐の子らの育成と校長の役割」をテーマに、第三分科会では、益田市立桂平小学校の松本徹校長先生に「豊かな人間性をはぐくむ学校経営について」学校がONE TEAMとなつて進める心豊かな児童の育成」をテーマに、全会員が今後の学校経営に活かすことのできる貴重な実践資料をご発表いただきました。ありがとうございました。

安来市小学校長会の皆様には、昨年度より準備を進めていただき、大会要項の作成等にご尽力いただきましたこと、心よりお礼申しあげます。

## 二 第六十七回 中国地区小学校長会

### 教育研究大会山口大会

山口市で開催予定だった標記の大会も誌上開催となりました。分科会では本県を代表して、第五分科会「豊かな人間性」で益田市立桂平小学校の松本徹校長先生に、第九分科会「学校安全」で松江市立古志原小学校の米田靖幸校長先生に、誌上発表していただきました。ありがとうございました。

## 三 第七十二回 全国連合小学校長会

### 研究協議会京都大会

京都市で開催予定だった標記の大会も誌上発表となりました。分科会では

本県を代表して、第六分科会「健やかな体」で海士町立福井小学校の濱板健一校長先生に誌上発表していただきました。ありがとうございました。

全連小鳥根大会を再来年にひかえて実際の大会運営を間近に見られる機会となるはずでしたが、誌上開催となったことは本当に残念でした。

## 四 第七十四回 全国連合小学校長会

### 研究協議会鳥根大会

今年度は松江市の校長先生方により準備委員会事務局、総務部、運営部、研究部、編集部、会員部の各部署で準備を進め、全連小に提案するために大会大綱作成等を行ってきました。来年度から実行委員会組織となり、各市郡の校長先生方にも組織に入っていただき、オール鳥根で準備を進めていきます。詳細については今後の理事会で協議してまいります。

## 五 第四回理事会(お知らせ)

令和三年三月五日(金)、サンラポーむらくもにおいて開催します。今年度の活動の反省と次年度の活動計画等を検討します。

## 六 令和三年度

### 第一回理事評議員会(お知らせ)

令和三年四月二十八日(水)、サンラポーむらくもにて、新年度の組織、事業計画等について協議する予定です。

## 令和二年度 会務報告

4	10	10	8	7	6	22	17	10
事務局会①	事務局会②	第一回理事評議員会	(紙面決裁)	事務局会③	事務局会④	第二回理事会	第一回常任理事会	中国地区理事会(紙面開催)
第三回理事会	県教委との意見交換会	県小学校長会教育研究大会安来大会(誌上開催)	全連小京都大会(誌上開催)	事務局会⑤	中国地区理事会(リモート)	中国地区小学校長会教育研究大会山口大会(誌上開催)	広報部会	事務局会⑥
中国地区理事会(山口)	第四回理事会	監査会	3	2	1	12	1	11
30	5	5	13	12	6	29	13	12

## 編集後記

例年は各種研究大会の報告を載せていましたが、今年度はコロナ禍のため軒並み誌上発表となりました。概要につきましては、校長樹林にも掲載していますので、ご覧ください。

本年度、最後の会報をお届けします。ご多用の中、ご協力、ご執筆いただきました皆様に、心からお礼申し上げます。(松尾)